

切手偏見



慶応大学創立 150 周年記念切手を手にして、他の記念切手にも増して、収集を意図し、実際の使用は念頭にない切手として発行されたと考えざる得ないことが非常に残念に思われた。

それは切り離して使用するのに躊躇する画像を分割して連刷した切手が 10 枚の切手のうち 6 枚も占めていること、更に、6 枚の切手のなかに、画像を縦横に 4 分割している 4 枚の切手（スタンド・グラス）が存在したことである。この 4 枚、切り離すと一枚の切手としては表現しているものが理解しにくく、残念としか言いようがない。

この 4 枚の切手を考える時、画像を分割している連刷切手のもつ問題を整理する必要を考えた。



1 枚の切手になると、何が描かれているのか理解が困難
十字架が描かれていると解釈されても ……

連刷切手には右の 4 種類の切手のように

- ①異なる画像を連続して印刷している（例、第 2 ～ 22 回国体切手）
- ②画像を明確に分割している（例、慶大 150 周年記念図書館外観）
- ③画像の 2 つの部分を使用して連刷している（例、切手趣味週間 朝顔狗子図杉戸）
- ④一對の作品画像を連刷している（例、第 2 次国史：紅白梅図屏風）

の計 4 つの種類に整理されると考える。

ここでは①を除いたものを連刷切手（画像分割連刷切手）として検討したい。

③、④の切手を分割連刷切手とすることは是非は意見があろう。

この連刷切手の発行状況を整理すると原画を確認できないので正確さに不安はあるが表 1 のようになる。

表 1. 画像分割の数から見た連刷切手の発行状況

分割形態	ふるさと切手	記念特殊切手	合計	枚数
横 2 分割連刷	38	108	146	292
縦 2 分割連刷		2	2	4
横 4 分割連刷	2	1	3	12
縦横 4 分割連刷		1	1	4
横 5 分割連刷	1	2	3	15
合計	41	113	155	327

連刷切手は 155 種類 327 枚が発行されている。ここで注意されるのが横分割連刷がほとんどで、縦分割連刷は 3 種類にしか見られず、今回、問題を感じたスタンド・グラス切手はその 1 つである。

次に、分割された対象の画像を以下の 3 つ

- ①分割を意図して作成された画像を連刷
- ②アニメ画像（①に位置づけられるアニメ画像を含む）を連刷
- ③既存の資料、作品の画像を分割して連刷（写真類の多くは①とした）

に整理してみると表 2 のようになる。

表 2. 分割画像内容別連刷切手の発行状況

分割形態	ふるさと切手	記念特殊切手	合計
アニメ画像		41	41
分割意図作成画像	38	45	83
美術・学術資料	3	28	31
合計	41	114	155

美術・学術資料を分割して連刷切手としたものが意外と少なく、当然ながら分割し連刷することを前提に作成されたであろうものが半数をしめていた。縦横 4 分割のスタンドグラス画像は美術・学術資料とした。

更に、分割画像内容と分割数の関連を見ると次頁、表 3 のようになり、美術・学術資料を対象とした場合に分割数が多くなるようである。唯一の学



①異なる画像の連刷



②一画像を分割して連刷

③一画像の二つの部分を連刷



④一對の作品画像を連刷

表 3. 画像分割の数と画像内容

分割形態	アニメ 画像	分割意図 作成画像	美術学 術資料	合計
横 2 分割連刷	41	78	27	146
縦 2 分割連刷		2		2
横 4 分割連刷		2	1	3
縦横 4 分割連刷			1	1
横 5 分割連刷		1	2	3
合計	41	82	31	155

術資料を連刷切手とした、ふるさと切手「長崎街道」は伊能忠敬の大日本沿海輿地全図に新たな画像を加えて 4 分割している。

このように連刷切手発行を整理したうえで今回、問題を感じたスタンドグラス切手を 2 つの切り口から考えてみたい。



①切手として表現の難しい対象画像

鉛の枠が図柄の黒い輪郭線となって、通常の画像よりも内容をとらえ難くしている。そのうえ、今回は窓枠が縦横に入っていることで、1 枚の切手としても、かなりつかみにくい対象である。このスタンドグラスの持つ封建社会の終焉と新しい文明の到来と、ラテン語「ペンは剣よりも強し」を表現したことはよく理解できるが、切手にするには無理があったことは否めないであろう。更に、連刷のため、縦横の窓枠に加え、垂直に目打ち、水平に白地部分（以下、ガッターと記す）と目打ちが入って、なお一層画像内容を理解しにくいものになっている。

②水平ガッター存在の疑問

なぜ、見にくくする水平のガッターが入れられたのか。縦分割のためガッターを入れたのでは？という疑問は関西空港開港記念切手の縦分割にガッターを設けてない例がその要はないことを示している。また、原画の一部分をカット、若しくはイメージ追加がガッター追加の条件か？という国際放送 50

年記念切手の大観筆「夜桜」にはガッターはないこと等から、同じく、その要はないことは明らかである。

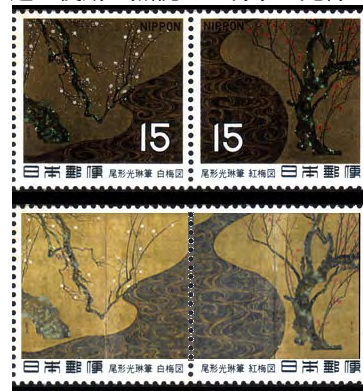
では、ガッターなく目打ちをいれた連刷切手とガッターに目打ちをいれた連刷切手はどこが異なるのか。

2 枚の切手が完全に連続した画像であればガッターはない。これに対して、○ 1980 趣味週間切手 西川祐信筆「春の野遊図」のように一枚の絵画の部分を割愛し、二つの部分を並列したもの、○ 国宝切手光琳作 二曲一双の屏風「紅白梅図」のように画としては連続しているが作品として対を成すもの、○ 政府印刷事業 100 年切手橋本雅邦筆 絹本著色六曲屏風「竜虎図」のように対であり、しかも一部を除いたものはガッターに目打ちをした連刷切手にされている。

例えば、この基準で竜虎図をそのまま連刷切手とした場合はガッターが必要がないので下図のようなイメージになる。これだけ原画をトリミングしたのであれば、当然独立した画像として表現する必要からガッターをつけざるえなかったと理解できる。



しかし、紅白梅図のような本来はひとつの画であるものをあえてガッターをつけて連刷切手にする必要があるか考えてみたい。学術的、美術的にタブーなことかも知れないがガッターを設けないものをイメージすると下図のように切り離して使用することを躊躇させられるものになる。このガッターを設けた理由がその使用しやすさを考慮してからかと、最近の使用を無視した切手の発行を踏まえると、あえて、考えたくもなる。



て、考えたくもなる。

一方、分割で分割部分に消去があったことを明らかにするため、ガッターを設けるといふことにも疑問を感じざるえない。

1981 年切手趣味週間の鈴木春



上 見立夕顔 原画
上右 1981年切手趣味週間切手
右 原画あてはめイメージ図



下 南波照間 原画
右 1986年切手趣味週間切手
右下 原画あてはめイメージ



信筆「見立夕顔」と1986年切手趣味週間の菊池契月筆「南波照間」の連刷切手と原画を比較するとこの点がみえてくる。上の2枚のイメージ図をみる限り原画のわずかなトリミングでガッターを設けた理由が理解しにくい。

逆に、本来は1枚の画に描くところを複数に分けて描かざる得なかった画などをなぜ1枚の画としてガッターなしで連刷切手にできなかつたかと思わせるものもある。それは相撲絵シリーズの「秀ノ山横綱土俵入り」切手である。この原画は下のように3枚の絵である。つなぎ目を目打ちとすればより美しい切手となったのではと思われるものである。

この相撲絵シリーズにスタンド・グラス切手と同じく切り離すことによって切手として考えさせるものがある。それは「武隈と岩見瀧取組」の右上の切手である。1枚だけ貼られたものを見て相撲を知らない者は



国会図書館貴重所蔵画像データベース錦絵より

知らない者は



何を思うであろう。この切手の原画は1枚になっており、トリミングの難しさを考えさせてくれる連刷切手である。

このように、過去の連刷切手をながめてみると、慶応大学創立150年記念切手のスタンド・グラスの4枚



連刷切手に横方向のカッターを入れる必要性は考えにくい。考えられるのは右下のラテン語のプレート



トを加えたことかサインでもあるのか。ガッターを除いたイメージを見ると4枚ブロックの画像としては見やすくなるが単片化時の問題は解決しない。



ガッターをとると

最後に次ページに画像分割連刷切手の一覧表を示す。この中に他の連刷切手とはやや異なるものがある。まず、ガッターが途中から設けられているものである。20世紀シリーズ12の「タロ・ジロ南極越冬」切手である。宗谷の分割されている部分にはガッターがなく、



ガッターが半分

タロ・ジロの2枚の写真の部分にはガッターがある。ガッターの扱いに関して示唆を受ける連刷切手である。つぎは一見、画像の部分を単に除いて連刷していると思われるものが、



杉戸の原画をはめ込むと

実は2枚で縮尺が異なるものである。円山応挙筆2006年切手趣味週間「朝顔狗子図杉戸」切手である。朝顔と犬の縮尺率はかなり異なっている。朝顔を

犬と同じ縮尺にすると上のように非常に小さい朝顔画像になってしまうことがわかる。

以上、スタンド・グラスのおかげで連刷切手に関して若干の知識を得る機会を持った。今後、ますます、濫発されるであろう連刷切手に、新たな偏見フィルターをあててながめる楽しみを持ちたい。(編集子)

